

## II 研究の目的と方法

### 1 研究の目的

本研究は、本道における知的障がいのある児童生徒の資質・能力の育成に向けた授業づくりの充実に資するため、知的障がい特別支援学校における授業づくりの課題を把握するとともに、文部科学省著作教科書（星本）（以下、「星本」という。）を活用した授業モデルを構築し、その取組をまとめ普及することにより、本道の知的障がいのある児童生徒の資質・能力の着実な育成を目指す。

### 2 研究の仮説

星本を活用した授業モデルを構築し、その取組をまとめ普及を図ることにより、知的障がい教育に携わる教員が各教科等で育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりへの理解を深め、資質・能力を着実に児童生徒に育むための授業の充実につなげることができるであろう。

### 3 研究の方法

#### (1) アンケート調査

知的障がい特別支援学校において育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりに関する取組の状況や課題、星本の認知と活用の状況を把握・分析し研究に生かすことを目的に、道立知的障がい特別支援学校48校の学部主事及び学年主任及び教務主任を対象としてアンケート調査を実施した。

#### (2) 研究協力校との授業づくり

星本の活用の効果や知的障がいのある児童生徒の資質・能力の育成に向けた授業づくりの充実のポイントを明らかにすることを目的に、道立知的障がい特別支援学校より研究協力校を選定し、星本を活用した授業モデルに基づく授業づくりを実施した。

##### ア 研究協力校の選定

本道の知的障がい特別支援学校において星本の活用に関心があり、学習指導要領に基づく授業づくりを更に充実させたい学校を「授業モデル実施校」として北海道余市養護学校と北海道紋別養護学校の2校に依頼し、星本を活用した授業づくりを行うほか、授業づくりに関して課題と感じていることや星本の活用に関する意見を具体的に聞き取った。

また、本道の知的障がい特別支援学校において既に星本を活用しながら指導を実践している学校を「星本活用サポート校」として北海道稚内養護学校と北海道東川養護学校の2校に依頼し、星本を活用した授業モデルの検討における実践事例の提供や授業モデル実施校への助言を依頼した。

なお、研究協力校4校との授業づくりに当たっては、本道の広域性を踏まえ、Zoomを用いてオンライン会議を中心として行うとともに、授業づくりに関する検討内容の可視化と授業づくりの悩みなどに対する即時的かつ双方向的な相談の実現が可能となるよう、Google Classroomを活用しながら情報共有を行った。

## イ 評価指標の記入

本研究において、星本を活用することによる資質・能力の育成に向けた授業づくりの充実度や授業改善に対する授業者の意識にどのような変容があるかを定量的に把握するために、評価指標を作成することとした。

本指標の項目については、Ⅲの1で示すアンケート調査の結果から、本道の知的障がい特別支援学校における、育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりの取組の状況や課題を踏まえて設定するとともに、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（以下、「各教科等編」という。）に示される知的障がいのある児童生徒の教育的対応の基本と、道教委が作成した「教育課程編成の手引」や他県の授業づくりシートなどを参考に項目を設定し、授業モデル実施校に対し、授業づくりの実施前と実施後のそれぞれに評価指標の記入を依頼した。

<b>授業づくりについて</b>					
	<b>学校名</b>		<b>回答者</b>		
指標	全く当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	とても当てはまる
(1) 児童生徒の学んでいる各教科の段階を把握して指導内容を設定している。	1	2	3	4	5
(2) 学習指導要領に示された各教科等の目標や内容を把握している。	1	2	3	4	5
(3) 学習指導要領に示された各教科の目標を踏まえて、単元の目標を設定している。	1	2	3	4	5
(4) 単元や本時終了時の「資質・能力が身に付いた児童生徒の姿」を具体的にイメージして評価規準を設定している。	1	2	3	4	5
(5) 思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成するための具体的な活動や展開を設定している。	1	2	3	4	5
(6) 資質・能力の育成に向けて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を位置づけている。	1	2	3	4	5
(7) 児童生徒の興味・関心や発達段階、生活経験を踏まえた題材の設定を行っている。	1	2	3	4	5
(8) 知的障がいのある児童生徒の学習上の特性を踏まえて指導を工夫している。	1	2	3	4	5

●評価指標について

- ・本指標は、授業づくりの充実度を定量的に把握するためのものです。授業づくり前と授業づくり後に記入していただきます。

●回答について

- ・各項目について、授業づくりで感じていることを率直に評価して下さい。
- ・該当するセルを黄色で塗りつぶして下さい。

### 「評価指標」

## ウ モデル授業の対象となる児童生徒の学びの段階の把握

特別支援学校学習指導要領第1章第3節の3の(1)のクでは、知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導に当たっては、特別支援学校学習指導要領の各教科の各段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定することが示されている。

各教科の指導を充実させ、「学びの連続性」を実現していくためには、学習指導要領に基づいて、児童生徒が何を学び、何が身に付いたのかを明確にすることが重要であると考え、モデル授業の対象となる児童生徒の学びの段階を把握するた



(3) 星本を活用した授業モデルの構想

前述の「Ⅰ 研究の背景」に示した知的障がい教育における授業づくりの現状と課題を踏まえ、星本を活用した授業モデルを以下のように整理した。本研究では、下記のSTEPに基づく取組を通じて星本を活用した授業づくりの効果を明らかにする。なお、本研究では、単元構想から授業の「計画-実施」の流れの中で星本を活用しながら授業づくりの充実を図ることを目的としていることから、「評価-改善」の検証プロセスについては触れていない。

<p>STEP 1</p> <p>■ 学習状況の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に示される各教科の目標や内容の習得状況を確認し、児童生徒の学んでいる段階を把握する。</li> <li>既学か未習かという視点と、内容の定着度はどのような状況かという視点を分けて確認する。</li> </ul>	<p>学びの履歴シート</p>
<p>STEP 2</p> <p>■ 資質・能力の明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学習状況を把握した上で、各教科の該当する段階に示される目標及び内容を学習指導要領解説各教科等編で確認し、児童生徒に対し、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にする。</li> </ul>	<p>学習指導要領</p>
<p>STEP 3</p> <p>■ 星本での題材の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成を目指す資質・能力を星本の教科書解説に示される星取表に照らし、対応する題材を確認する。</li> <li>教科書解説で題材がねらいとしていることや、児童生徒が生かしたり働かせたりする「見方・考え方」を確認する。</li> <li>該当する段階で取り扱う内容の系統性に見通しをもつ。</li> </ul>	<p>星本・教科書解説</p>
<p>STEP 4</p> <p>■ 指導計画の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書解説に書かれた学習指導例等を参照しながら、児童生徒の障がいの状態等に応じて具体的な指導内容を設定する。</li> <li>児童生徒が学ぶ必然性を感じ、主体的に学ぶための学習活動の計画を立てる。</li> <li>単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、どの時間にどの観点の評価を重点的に行うかという評価の計画を立てる。</li> </ul>	<p>個別の指導計画</p>

